

JR東労組新潟

東日本旅客鉄道労働組合新潟地方本部OB会

〒950-0086 新潟市花園1-1-5

# OB会ニュース

発行責任者 山崎 次 男

## 新潟地本OB会第23回定期総会を成功させよう!

日時 6月28日(金)

12時から

場所 新潟鉄道信用組合

大会議室 5階

(新潟駅万代口脇)

懇親会 駅南・よむい

会費 3,000円

昨年の22回総会から(8月31日)から9ヶ月が経過しました。春闘を契機とした大量組織脱退は、未だ組合員の減少が続いており、東労組本体は厳しい状況にあります。

今地本OB会総会では、JR東労組の再建を支援すると共に、憲法9条壊憲反対、柏崎刈羽原発再稼働反対、社会保障関連の改善の取組みなど、そして、支部活動の活発化や、今後のOB会の方向性についての課題があります。積極的な議論と成功に向けて協力をお願いします。

### 会費納入御礼!

会費の徴収をお願いしましたが、特別な事情を除き、既に多くの会員の皆さんから納入をしていただいています。ありがとうございます。

徴収は6月末までですので、早めの納入をお願いします。

## 第23回本部OB会定期総会終る!

OB会のあるべき姿を巡り議論! 本部の再建を支え、支部・地域重視の活動方針を決定!

4月19日12時より、東労組本部大会議室に於いて、本部OB会第23回定期総会が開催されました。新潟地本OB会からは、委員3名(山崎会長、沖田副会長、高橋事務局長)、本部役員として渡部副会長の4名が参加しました。現役の組合員の脱退による組織混乱、そして東労組の再建に向けた意見の相違が顕在化している状況の中で、OB会の役割やあるべき姿、今後の活動方針などについて議論され、本部提起内容について満場一致決定されました(細部は本部OB会ニュースNo.264号を参照)。

### 新潟を代表して高橋事務局長が発言

※ 新潟地本OB会員の組織構成は、70〜74歳が5割、75〜79歳が3割である。今後のOB会活動の在り方について検討をしていく。

※ 現場・職場を離れ10数年経過した。現役に対し、「ああしろ」「こうしろ」というのは無責任だ。現役が「冷静に」



高橋委員

賢明に「正しい判断」で組織の一体化を図り、会社や権力を利することなく再建に進むのを支援していくのがOB会の立ち位置だ。

※ 抵抗とヒューマンズに立脚し、9条壊憲反対など平和を求め取組み、原発再稼働反対、年金など社会保障の改善に向けて県退職者連合との連携、そしてそれを実現していくための統一地方選挙や参議院選挙を取り組んでいくとの、発言を行いました。

その他委員の主な発言では、「本部臨時大会での規約改正や組織運営に対する疑問・批判意見」現役に物を言うべきではない「意見を言うのは良いが、決めたことは守るべきだ」など。更には、八王子地本OB会と八王子地本との対立の改善が進んでいないなど、各地本1名の委員から発言があり、OB会は支部活動を活発化させ、地域重視で活動を展開しようとの方針を満場一致決定されました。

### 渡部本部副会長退任 新たな役員体制決定

昨年の総会時に上信越ブロック選出の後任が決まらず1年間留任していた渡部副会長は高崎地本から後任が選出されたため今回で退任となりました。長い間お疲れ様でした。



退任挨拶・渡部副会長

本部OB会の役員体制は、13名から10名となり、奥山新会長、植松新事務局長の新たな体制で活動を展開していくことになりました。

第2回上中越地区囲碁大会

4月22日地本内で、唯一残った支部事務所である長岡支部事務所において、第2回上中越地区囲碁大会が開催されました。

大会には、長岡11名(欠席1名)、直江津3名、越後湯沢1名の15名の囲碁好き会員が参加、日頃腕を磨いている人前回の大会から初めて「石」を握る人々まで参加したが、それぞれ実力を発揮し、名勝負が繰り広げられました。

終了後は場所を移して恒例の懇親会が開催され、再会を誓い楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

成績(敬称略)

Bクラス Aクラス

- |             |             |              |
|-------------|-------------|--------------|
| 1位 渡辺 茂(長岡) | 2位 三井敏男(長岡) | 3位 野崎忠夫(直江津) |
| 1位 鈴木雄二(長岡) | 2位 石川進一(長岡) | 3位 坂井政次(長岡)  |



長岡支部 観桜会盛大に開催!

5月9日、13時よりの割烹「原や」において観桜会と統一地方選の慰労会も併せて開催、27名が参加しました。

最初に大久保支部会長は、「地方選挙では、支部が支援した長岡・柏崎・見附・南魚の候補が全員当選できた、感謝する。9条改憲や原発再稼働に反対する議員を誕生させた意義は大きい。参院選でも野党統一候補を支援していく」安倍首相は9条改憲に突き進んでいる。平和を求めて取り組んでいきたい」との挨拶後、乾杯で祝宴が始まりました。

花は無くとも話に花が咲き、加えてカラオケの熱唱もあり大いに盛り上がりました。



労金シニア倶楽部加入御礼

新潟労金倶楽部への加入の要請を行いました。多数の皆さんから加入していただき、労金より御礼の連絡がありました。引き続き加入が可能ですので、役員又は直接労金に申し込んで下さい。

東電の安全対策を問う!

柏崎刈羽原発運転差し止め裁判

3月18日、新潟地裁で柏崎刈羽原発運転差し止め訴訟第26回口頭弁論が開催されました。

今回の裁判では、福島原発裁判の弁護団の内山弁護士が弁論を行い、また和田原告弁護団長は、「安全対策」について準備書面を提出しました。

4つの安全対策のポイント

原告側が「準備書面」提出

第1は、政府が進めている原発の輸出計画(英国、ベトナム、トルコなど)は、建設コスト(安全対策費)が高騰し、計画は総崩れとなった。

第2は、現行の冷却確保は外部からの冷却方式だが、システムの転換が必要。第3は、原発の重大事故は全電源喪失でメルトタンが起き、余熱による燃料棒の溶解が原因だ。例えば、燃料棒の余熱を賄うだけの水を用意し、余熱を除去される構造が考えられる。第4に世界の原子炉開発における最新設備は、我が国の原発にはない。計算上の数字合わせで「無事に大過なく動いて欲しい」と天に祈るよつである」との準備書面を提出しました。

東電の地震動特定の問題点指摘

福島原発弁護団の内山弁護士は、

- 1、中越沖地震では極めて大きな地震動が発生した。東電が各号機間の地震動の差異の説明が出来ないのは、「地下構造が分からない」からだ。
- 2、新潟市沖から小千谷市までの「長岡平野西縁断層帯」では、地震動が増幅するところだから大きくなりすぎる「ことから」増幅しない」との東電の主張は「過小評価」である。
- 3、「長岡平野西縁断層帯」での地震動が、最大どれだけの振動をもたらすのかの係数は、少なくともその2.7倍すべきであると主張し、東電の想定が不十分と主張しました。

これに対する東電の反論

①、「フィルター付きベント」が地震による液状化の影響を受けるこの原告側の指摘に対し、「今後調査し、新たな知見が得られれば必要な対策を行う」。

②、原発敷地内の地下水汲み上げ設備(サブドレン)が地震によって壊れ、地下水が流れ込まないかについて、「流入を確実に防止する対策をしている」と述べたことと、反論ならざる反論を行いました。

次回の第27回公判は

6月13日、15時

報告者 K・S

皆さんも傍聴に参加しませんか!